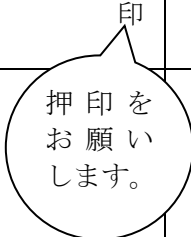


(様式 2)

履 歴 書

年 月 日現在

(ふりがな) 氏 名	○○○ ○○○○ ○○ ○○	生年月日 <u>(西暦)</u>	○○年○月○日生(△歳) (旧姓)
現 職	◎◎大学 □□学部 講師	連絡先	〒000-0000 ▲▲市○○町□丁目◆番 電話 (000) 0000-0000 メールアドレス 0000@0000.ac.jp
現住所	〒000-0000 ■■市◇◇町△丁目×番地 電話 (000) -0000-0000		
学 歴 <u>(西暦)</u>	○年○月 ■■高等学校卒業 ○年○月 △△大学□□学部 入学 ○年○月 同 卒業 ○年○月 △△大学大学院□□研究科 入学 ○年○月 同 修了		
学位 <u>(西暦)</u>	○年 ○月 ××大学博士(△△学) (第○○号)		
免許・資格 <u>(西暦)</u>	○年○月 ○○○○学会 (第○○○号)		
職歴・研究歴 <u>(西暦)</u>	○年○月 △△大学 研究員 勤務 ○年○月 ××大学 ◆◆教室 特別研究生 入学 ○年○月 △△大学 研究員 退職 ○年○月 ◇◇大学 □□学部 助教 勤務 ○年○月 ××大学 ◆◆教室 特別研究生 退学 ○年○月 ◇◇大学 □□学部 助教 退職 ○年○月 ◎◎大学 □□学部 講師 勤務 現在に至る		
賞 罰	○年○月 ××学会 ◎◎賞受賞		



記 載 例 (3の2)

著 書	
番 号	(単著) 著者、書名、総頁、発行所、発行地、発行年 (共著・分担執筆) 著者名、分担題目、書名、編者名、初頁～終頁、発行所、発行地、発行年
(英文) (分担執筆)	
1 Herman R, Freedman W, Monster AW and <u>Hanaoka T</u> *: A systematic analysis of myotatic reflex activity in human spastic muscle. In “New Development in Electromyography and Clinical Neurophysiology” (Ed.) Desmedt JE, pp 556-578, S Karger, Brussels, 1994	
(和文) (単著)	
2 <u>華岡太郎</u> * :「卵巣の内分泌学」 総 406 頁、診断と治療社、東京、1995	

原 著 (審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録などは含めない。)	
番 号	著者名、題名、誌名、巻、初頁～終頁、年、I F、C I
(英文)	
1 Wakaura H and <u>Hanaoka T</u> *: Sensory response of cortical neurons in the anterior ectosylvian sulcus, including the area evoking eye movement. Brain Research 575: 181-186, 1996 IF=2.389 CI=21	
(和文)	
2 <u>華岡太郎</u> 、和歌浦花子* : 糖尿病患者の色覚異常について. 糖尿病 33: 675-680, 1993	
3 <u>華岡太郎</u> 、南方熊夫、雑賀孫二* : 糖尿病性神経障害について. 糖尿病 35: 837-842, 1995	

総 説	
番 号	著者名、題名、誌名、巻、初頁～終頁、年、I F、C I
(英文)	
1 <u>Hanaoka T</u> *, Wakayama H and Minakata K: Neurogenic control of cerebral circulation. Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism 29: 1655-1667, 2009 IF=5.673 CI=96	
(和文)	
2 <u>華岡太郎</u> * : 痛みの分子生物学—ペプチド発現と細胞性癌遺伝子. ペインクリニック 12: 17-24, 1990	
3 和歌浦花子*、 <u>華岡太郎</u> : 動脈硬化巣におけるコラーゲンおよび関連酵素の分布. 動脈硬化 19: 601-604, 1991	

記 載 例 (3の3)

症 例 報 告	
番 号	著者名、題名、誌名、巻、初頁～終頁、年、IF、CI
1	華岡太郎、南方熊夫、雑賀孫二*：聴性脳幹反応潜時の遅延を認め SIADH を合併した糖尿病性神経障害の一例. 糖尿病 35 : 837-842, 1995

学 会 発 表	
(国際学会、国内学会に分けて記載する。国内学会は特別講演、シンポジウム、ワークショップのみ。国際学会は一般演題を含む。)	
番 号	発表者名、演題名、学会名、場所、年
	(国際学会) *シンポジウム
1	Hanaoka T, Saika M and Minakata K: Expression and regulation of neuropeptides in rat facial motoneurons. VII International Symposium on Facial Nerve, Cologne, Germany, 1992
	*一般演題
2	Hanaoka T, Saika M and Minakata K: Halothane constricts mesenteric artery transiently by releasing Ca ⁺⁺ from the sarcoplasmic reticulum. Annual Meeting of American Society of Anesthesiology, New Orleans, USA, 1992
	(国内学会) *シンポジウム
3	華岡太郎：Dynorphin(1-13)のモルヒネ鎮痛と耐性形成におよぼす影響、第6回鎮痛薬オピオイドペプチドシンポジウム、長崎、1996

加 入 学 会 お よ び 社 会 に お け る 活 動	
(主な学会名、役職名および学術雑誌の編集委員等を記入する。併せて、加入・活動期間等も記入する。)	
(加入学会)	
○日本××学会 (2005年4月～現在) 評議員 (2012年4月～現在)	
○和歌山▲▲学会 (2006年1月～2008年12月) 事務局責任者 (2007年4月～2008年12月)	
○近畿■■学会 (2010年4月～現在)	
(学術雑誌の編集委員等)	
○Deputy Editor Brain Res. (2011年4月～2013年3月)	
(その他社会における活動)	
○日本学術振興会◇◇委員会専門員 (2009年12月～2010年11月)	